山田宏のタックルニュース
令和元年号
7月1日
令和元年
発行
山田宏よい国後援会
機関紙
自民党

歯科の重要性が、3年連続で「骨太の方針」に記載

～「たね」から「芽」が。さらに「花」から「実」まで頑張ります！～

参議院議員 山田宏

「骨太の方針」2017・2018・2019

2017年

口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む。

▼

2018年

口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者をはじめとする国民に対する口腔機能管理の推進など歯科口腔保健の充実や、地域における医科歯科連携の構築など歯科保健医療の充実に取り組む。

▼

2019年（案）

口腔の健康は全身の健康にもつながることから、エビデンスを蓄積しつつ（エビデンスの信頼性を向上させつつ）、国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診、フレイル対策にもつながる、歯科医師、歯科衛生士による歯科口腔機能管理など歯科口腔保健の充実、入院患者への口腔衛生管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組む。

表1

さらに充実した「骨太の方針2019」の歯科

6月に総理の諮問機関である経済財政諮問会議は、「骨太の方針2019（案）」を決定（月末に閣議決定予定）、歯科の重要性が3年連続で記載されました。「骨太の方針」とは国の翌年の「国家経営基本方針」であり、翌年の予算の重点項目となるもので、毎年ゼロベースで書き換えられるのが原則。つまり前年記載されたからと言って翌年記載されるとは限らず、3年連続の記載は国が歯科重視の方向に進んでいる証と言えます。

表1は、3年間の「骨太の方針」の歯科に関する記述の変化です。年々充実しつつも、「生涯歯科健診」「病院や介護施設での歯科口腔機能管理」「地域での歯科保健医療」を、変わらず国の健康政策の柱として位置づけてきたことがわかります。

歯科健診の拡大へ

特に歯科健診については、同じく6月6日に決定された未来投資会議（議長は総理）の未来投資戦略の中にも、「歯周病などの歯科疾患対策を強化するため、現在10歳刻みで行われている歯科健診の機会の拡大し、歯科の保健指導の充実することについて、検証結果を踏まえ、来年度（2020年度）までに検討に着手し、速やかに結論を得る」と記されました。

3月20日の未来投資会議に提出された「歯科健診の受診率」というグラフ（表2）では「受診率を高めることが必要」とされており、財務省所管の「骨太の方針」だけでなく、経済産業省所管の未来投資会議でも、人生百年時代を視野に歯科健診の受診率の拡大に取り組むことが示されたのです。

そこで厚労省では、昨年から「歯科健診推進事業」として年2億7百万円の予算で受診率向上のモデル事業を指定して支援し、効果的な健診方法（健診の標準化）の検討や医療費等への効果のエビデンスの収集を行いつつ、将来の「生涯歯科健診」の実現に向け着々と必要な検討を行っています。

また「骨太の方針」や「未来投資戦略」での歯科充実に関する記述は、来年度に向けての予算獲得や診療報酬改定への「大義」として効果を発揮することになります。

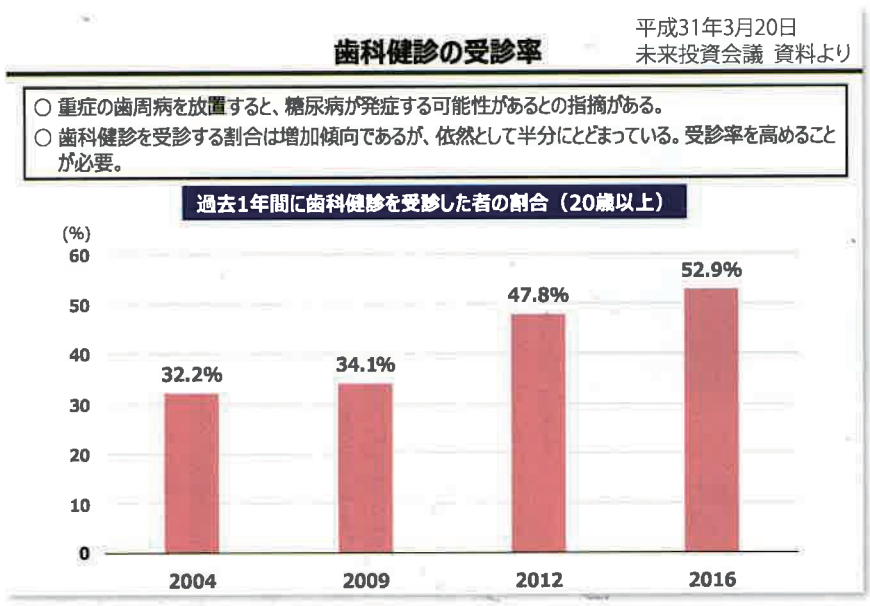
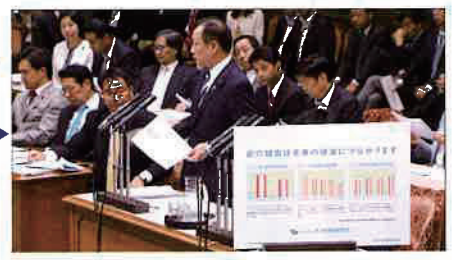


表2

私の2年前の国会質問も寄与！

今年3月1日の日本歯科医師会発行の「日歯広報1723号」（下の図）には、安倍総理と堀憲郎会長との対談が掲載されています。その中で歯科に対する「国民の理解深まっている」ことに関する堀会長の質問に対し、総理は「国会質問でも議員から、残存している歯の本数が多いほど医療費が低い、あるいは歯周病がない人は歯周病がある人に比べると年間の医科医療費が低いというデータを示していただきました」と答えています。

これは、平成29年6月5日の参議院決算委員会での私の質問が、総理の歯科口腔への認識を深めることに寄与できたものと自負しています（左図に速記録と写真）。私は「歯科医でないからこそ、できることがある」と、皆様に訴え当選させていただきました。杉並区長時代も、今も、「道なきところに道をつくる」ことが、私の使命と考えています。しかし、切り拓いた道を使えるように整えることは、歯科の専門家でなければできません。その道を整えるためにも、「ひがなつみ」さんと二人三脚で頑張りたいと思います。



平成29年6月5日
参議院決算委員会▶

平成29年6月5日
参議院決算委員会記録▼

安倍：一昨年の経済財政諮問会議で民間の議員から手術前の歯科による専門的口腔機能管理を行うと、在院日数が短くなるという事例が示されました。その後、国会質問でも議員から、残存している歯の本数が多いほど医療費が低い、あるいは歯周病がない人は歯周病がある人に比べると年間の医科医療費が低いというデータを示していただきました。

○山田宏君　駄目なんですよね、それじゃ。歯が痛くなくても、もう総理ぐらいのお年になれば、私も大体、ちょっと近いんですけれども、定期的に痛くなくても歯医者に行って健診受けて、なるべく早く歯周病等を治す必要があると思うんですが。

これ見てください。これは香川県の調査ですが、香川県の調査によると、歯科健診をやっている人とやっていない人、年間医療費が十万円、歯科健診をやっている人は少ないんです。どういう意味かというと、病気にならない。残存歯数と診療費の関係を見ても、歯がたくさん残っている人の方が医者にかからない。そして、歯周病の程度と診療費の問題も、歯周病が重度になればなるほど医者にかかる回数が、歯医者じゃないですよ、医師に、病気になっちゃう。

日歯広報1723号